



Prathiba M. Singh

インド デリー高等裁判所 裁判官

【略歴】

プラティバ・M・シン氏は、バンガロール大学法学部で5年の法律課程を修了後、首席で卒業し、米国シカゴで開催されたジェサップ国際法模擬裁判大会にインド代表として参加した。ケンブリッジ連邦基金の奨学金を得て、ケンブリッジ大学で法学修士課程を履修し、1991年に弁護士登録をした。

裁判官に任命される以前は、インドを代表する知的財産分野の弁護士として、特許権、商標権、意匠権、著作権、植物品種保護権、インターネット法など知的財産法のすべての分野で重要な案件を取り扱い、活躍した。シン＆シン法律事務所の経営パートナーとして顧客に助言を提供し、商取引に係る紛争、仲裁、電気通信、放送法、マスコミ法、令状、規制問題、教育などに関する案件を担当した。インド最高裁判所、デリー高等裁判所、電気通信紛争処理控訴裁判所（TDSAT）、知的財産審判委員会（IPAB）や商標特許庁に定期的に出向き、著作権庁業務効率化のためにデリー高等裁判所の法廷助言者に指名され、特許審査業務効率化を目的とする上級委員会委員にも指名された。

2002年の特許法改正、2012年の著作権法改正や地理的表示法などを検討する議会の委員会に招かれ、専門家として意見を述べた。

2013年12月、デリー高等裁判所から上級弁護士の指定を受けた。

2013年には、法学修士課程のインド人学生のためのプラティバ・M・シン奨学金がケンブリッジ大学に創設された。同奨学金はケンブリッジ大学に入学し、法学修士課程を履修するインド人学生に与えられている。また、最近では、ケンブリッジ大学の副総長により、インドのための「相談役会」の一員に招待された。

2015年5月に公表されたインド初の「国家知的財産権政策」の立案を任された知財シンクタンクのメンバーを務めた。また、2018年9月、Business Today Groupから「30 Most Powerful Business Women in India」を受賞した。

「India – Look behind the headlines」、「India is a game-changer in Patent laws」、「Implementation of the Commercial Courts Act」、「CRI guidelines」、「Expedited trials in patent cases」などの論稿が国内外の代表的な出版物に掲載された。

アジア弁理士協会（インド部会）の会長時代には、IPABの設立やIPABのためのデリー法廷複合施設の建設を求める請願書の提出など、いくつかの重要な活動を主導した。国内外の知財関連のワークショップ、セミナーその他さまざまな行事で、レギュラー・スピーカーの役割を担い、インド産業連合の知的財産権運営委員会の委員も務めた。

「IP Litigator of the Year, 2012」、訴訟の功績に対しManaging IPにより授与される「Asia women in Business Law Awards」、Legal Eraの「IP Lawyer of the Year, 2013」および「Best IP Senior Counsel of the Year- 2014」、ならびにインド国民弁護士会の「Woman Lawyer of the year, 2015」など、さまざまな賞を受賞している。

SCBA、DHCBA、INTA、APAA、AIPPI、IPAA、IPLPA、電気通信法律家協会など、いくつかの専門家団体のメンバーを務めた。

2017年5月15日、デリー高等裁判所の永久裁判官に任命された。